

## 議員定数及び議員報酬調査特別委員会 摘 録

1. 開催日 令和5年3月2日(木) 第2委員会室
2. 出席委員 政野太委員長 桂藤和夫副委員長 堀井秀昭 福山権二 藤木百合子 國利知史  
松本みのり 近藤久子議長
3. 欠席委員 なし
4. 事務局職員 花田譲二議会事務局長 横山和昭議会事務局議事調査係長 丸飯龍太議会事務局主任主事
5. 説明員 なし
6. 委員外議員 横路政之副議長
7. 傍聴者 1名
8. 会議に付した事件
  - 1 付託事項の審査
  - 2 今後の審査について
  - 3 その他

---

午前11時00分 開 議

- 政野太委員長 これより第7回議員定数及び議員報酬調査特別委員会を開会いたしたいと思います。  
本日は、傍聴、録音、録画を許可しています。全員おそろいですので、直ちに協議に入りたいと思います。

---

### 1 付託事項の審査

- 政野太委員長 まず、協議事項の1点目、付託事項の審査で、このたび議員アンケートを行わせても  
らって、皆様方には御協力をしてもらいまして、20名全員に回答してもらったところです。その中身  
の取り扱いについて、皆様方に御確認をしてもらいたいと思うのです。その結果内容について、氏名  
は未記入で回答してもらっています。当初の予定どおり、これは公開をしようと思っ  
ていますので御了承ください。公開の方法なのですが、まずはホームページへの記載を考  
えています。また、必要に応じてその時期等も検討しながら、提供してもらいたいとい  
うところがありましたら、提供も考  
えていきたいと考えていますので御了承ください。この件についていかがでしょう。アンケートにつ  
いて何か御意見がありますか。福山委員。
- 福山権二委員 アンケートの結果はここでは出さないのですか。
- 政野太委員長 きょうの結果を受けて、皆様方に配布をしようと思っています。議員アンケート集計  
結果というのがありました。モアノートに入れています。横山係長。
- 横山和昭議会事務局議事調査係長 今、集計結果をごらんになっていると思います。自由記載につ  
きましては、皆さんに御記入をもらったそのままの文面で記載をしています。先ほど、公表につ  
いて委員長から皆さんの御了承を取ってもらったと思いますけれども、原則はこのままの文  
面で公表する  
と考えています。

- 政野太委員長        どういたしましょう。今、少し見る時間をとったほうがよろしいですか。昨日、メールで事務局から送らせてもらっていたとは思いますが、それでは、よろしいですね。議員アンケートについてはそのような取り扱いをさせていただきます。続きまして、当初から予定をしています市民アンケートの実施について、係長から御説明をお願いします。
- 横山和昭議会事務局議事調査係長        まず、文面をごらんください。前回の御議論の中で、直接的な質問として、議員報酬が高い低いどう思われますかとか、定数をどう思われますかという質問をすると、大抵の市町で、報酬が高過ぎる、定数が多過ぎるので減らせという直接的な回答が返ってきてしまっていて、なかなか次の議論に発展しにくいのではないかとということがありました。そういったところを少し踏まえまして、直接的ではないのですが、前回の議員アンケートの項目をもとに、皆さんが実際に市議会に対してどういった思いを持っておられるか、という視点からアンケートの案として作成しています。よろしくをお願いします。
- 政野太委員長        日程確認ですが、アンケート配付時期の予定をもう一度説明してもらってもよろしいですか。
- 横山和昭議会事務局議事調査係長        アンケートの配布なのですが、できましたら今月中には配布を、と考えています。
- 政野太委員長        これもモアノートに入っていますので、見てもらいながら話を進めていきたいと思えますけれども、今月中には配布を予定していると。その配布方法について、皆様方にもまた議論してもらいたいと思いますが、まず案を係長からお願いします。
- 横山和昭議会事務局議事調査係長        方法としましては、事務局としては2案あります。1点目、市民の方を無作為に抽出しまして、そちらに対して送付し、御回答をお願いする方法。もう1点は、直接、例えば、各種団体様等々に手渡しという形でお配りして回答を依頼する方法。この2点があります。まず1点目、無作為抽出による送付なのですが、直近で同じような方法でアンケートを実施した部署に状況を確認しましたら、回答者の層といたしますか、例えば、若年層の方から全て送っても、紙で返ってくるとなると高齢者層の方の回答が非常に多くなるそうです。なので、少し偏った意見が返ってくる可能性はあります。そこは懸念をするところです。
- 政野太委員長        それで、皆様方に御議論をしてもらいたいのですけれども、まずは市民抽出。これは可能とのことですので、これはこれで当初お話があったと思いますが、年代層であるとか、性別であるとか、そういったところをバランスよく市民の方に送らせてもらい、それを回収するという方法が1つ。同時にいろいろな方法を合わせてもいいのですよね。係長。
- 横山和昭議会事務局議事調査係長        サンプル数によってアンケートの信頼度が変わってくるようです。本市の人口規模ですと、大体400から500のサンプルが集まれば信頼のおける調査、という統計が出ています。無作為抽出の方法等でありまして、大体、回答率3割から4割の間をみまして、1,400名程度に送付をすればある程度サンプルが集まるのではないかと考えています。ただし、先ほど申し上げましたように、回答者の年齢層が偏る可能性があるという懸念はあります。
- 政野太委員長        企業については、これはこれで同時に実施しても大丈夫ですよ。
- 横山和昭議会事務局議事調査係長        同時にしますと回答者が重複する可能性があるのですが、方法については統一をしたほうがいいのかと思います。それから、庄原市外からお勤めの方がおられるところもあるので、そういった精度も含めて御検討をしてもらおうことがあるかと思えます。

○花田譲二議会事務局長　　例えば、今でいうと、SNSとかホームページなんかを見て、そこからダウンロードして行ってくださいという方法もできるのですが、これを行ってしまうと、1人が何通も出すことが可能になります。その辺のところをよしとするのかしないのかというところは出てくるわけです。そうしますと、どうしてもアンケートの信憑性となると疑問が出てまいるのは事実です。ですから、今、横山係長が申しますとおり、これまでの方法としまして、郵送という形であれば、お1人当たり1回が確定しますので、そういう方法で行っているという状況かと思えます。ですから、そうではなければ、団体に送ってという形になれば、これはまた、回答される方が限られてくる可能性もある。これも過去に何度か経験があります。そういう、デメリットではないのですが、固定化される部分もある。もう1つは、通常、そのアンケートの中身によってどの年代をターゲットにするかというのも当然あったりするわけです。先ほど言った、若年層をターゲットにして若年層を広くする。年代別に同じような比率で行って行って、高齢者が多いですから、ある程度高齢者から返ってくる比率が高くなるのはいたし方ないと判断するのか、その辺のところも少し御議論の中に入れてもらうべきかなと思っておりますが、どちらか一方でとなりますと、信憑性を鑑みれば郵送という方法になるのかなと考えています。

○政野太委員長　　副委員長。

○桂藤和夫副委員長　　例えば、18歳以上が有権者になっているので、四つの高校がありますけれども、高校生宛てに学校に出向いて行って、高校生に、18歳以上の方をターゲットにお願いするという方法で行ってもいいのではないかなと思うのですが、この辺はいかがお考えでしょうか。

○花田譲二議会事務局長　　それは方法としてありだと思います。中には、中学校に持っていったというアンケートも過去にあったのは事実ですし、高校生全員にわたしてもらって、無作為で返してもらうという方法もいろいろなアンケートで行っていますので、それは可能かと思えます。

○政野太委員長　　福山委員。

○福山権二委員　　アンケートをとる目的が、市民の本当の意見を聞きたいということで、全年齢的に充足されるようにとることが基本だと思うので、今、副委員長が言われたように、高校に行って、庄原市民の高校生に回答してくださいと協力要請をしたり、あるいは、福祉施設に行って、高齢者に行ってくださいとか、そういうジャンル別に、こちらが施設や団体を選んでそこに協力要請を願う。少々ダブっても、例えば、老人クラブ連合会に頼んだり、女性会に頼んで行ったほうが、全年齢的な、全地域的なアンケートが実現できるのではないかなと思うので、そういう協力を得て行うのが一番いいのではないですか。郵送して返ってくるかどうかわからないではなく、協力要請をして行うほうが、一番、全年齢的に地域の充足ができるのではないかなと思います。

○政野太委員長　　松本委員。

○松本みのり委員　　特定の団体さんとかだとかかなり声を届けやすかったりするので、そこに入らない個人の方がどう考えておられるかという部分で、無作為のアンケートはさせてもらう。それと、そこで、なかなか若年層がそのアンケートに答える率が少ないという部分を補完する意味で、高校とかに出向いて、そちらはそちらで、高校生はこうでしたという形で、別枠でまとめるというのも方法の1つではないかなと思うのです。

○政野太委員長　　最初に私が確認したのは、実はそういうことだったのです。無作為で抽出するアンケートも行いながら、ある程度、先ほど言われた団体であるとかそういったところについては個別でお

願いをして、という両面ですることが可能なのか。別に、特にそこに問題があるわけではないですよ。ね。事務局長。

○花田譲二議会事務局長　　学校とか、例えば、高校となれば、その無作為の中から18歳というのを除けばいいだけなのです。その代わり18歳の部分は高校で行いますと。ただし18歳の中には市外に出ている学生さんもおられますので、そこは対象とならない。逆に、例えば、庄原格致高校で言えば市外から来られている学生さんもいる。それをどうするかということになってきます。ですから、その無作為抽出とダブらない方法はそれで可能だと思います。ただし、他の団体となったときに、無作為を行いながら他の団体となるとこれはダブる可能性がある。例えば、松本さんに2通行く場合がある。これは可能性として、そんなにたくさんはないですけども、あると思います。その部分のところがどう整理するか。

○政野太委員長　　例えば、高校であるとか企業であるとかということについては、また次の議論だと思います。ダブるという考え方がどのように理解されるかですが、例えば、庄原市議会議員の政野太あてに来たものと、それから、個人の政野太あてに来たものということでは理解をすればいいのではないですかね。だめなのですか。

○花田譲二議会事務局長　　それでも結局、お答えになるのは政野さんで、2通出すという形です。1人で2つの回答があることは、これは統計上あってはならないことです。1人が何票も投票するのと同じことになりますから、これは信憑性からいうと、かなり問題になってまいります。ですから、例えば、何かのいろいろな団体のところにおられる方で、その施設を通じて出してくださいというものに協力をしました。でも片方では無作為ですから、その人がただ単に選ばれて郵送するという形になる、というのが現実かと思います。その部分のところがダブりをオーケーにするというのは、統計上、問題があるかと思いますが。

○政野太委員長　　係長。

○横山和昭議会事務局議事調査係長　　もう1点、限られた時間の中で、2つの大きなデータを集めて、それを果たして時間内で分析できるかという懸念もあろうかと思いますが、効率的な方法といえますか、よりスムーズな審議のためには、私は、ある程度方法を絞った上で実施をしたほうがいいかと思いますが。

○政野太委員長　　今、副委員長が言われたような、個別の団体に対しても配布してはどうかという意見がある中で、事務局からは、そのデータの処理の考えから1つに絞るべきではないかという意見がありますけれども、その辺、皆さんいかがでしょうか。何か、これをちゃんと分離できるという理屈がそろえば配布も可能だとは思いますが。横路副議長。

○横路政之副議長　　アンケートの信憑性を担保しようと思ったら無作為でいかないと。漏れた場合というのはいけないですけども、各団体とダブったら、どうなのかというのを市民の人が疑問に持たれるというのも、そちらのほうが問題になってくるかなとは思っています。いろいろ話を聞いてみる中で、信憑性が確実に担保される方法しかないのではないかと思います。

○政野太委員長　　ほかに皆さん御意見はありませんでしょうか。堀井委員。

○堀井秀昭委員　　事務局の懸念は当然のこと。それと、2種類、3種類の方法をとることによって不平等が生じて、出てきたアンケートの集計結果自体が信憑性のないものになってしまったのでは何をしたかわからない。そうすると、基本的には無作為による人数、年齢、性別、地域も入れる必要がある

かなと思うけれども、そこらから抽出をして、むしろなるべく多くの意見をもらいたいのであれば、1,400人に限らず、この人数をふやすという方法をとるほうが、私は現実的ではないかと思えます。

○政野太委員長 國利委員。

○國利知史議員 私も、今の御意見に賛同というか、近い思いなのです。今、副委員長が言われたように、高校には出向いてアンケートを依頼する。そこは多分、高校生全てに行ってもらおうようになると思うのです。でも、高校生以上は無作為で誰に届くかわからない、18歳は全員行く、というのもし少しバランスが悪いのではないかなというところもあるので、今、1,400、1,500と言われた配布をふやすほうがいいのかなどは思いました。

○政野太委員長 事務局長。

○花田譲二議会事務局長 この議論で、我々もずっといろいろなアンケートをさせてもらった過去の経緯から言いますと、先ほど係長が申し上げた、若年層の回答が非常に少ないのが、この郵送で無作為に行った場合というのは往々にして出てくる。どうなるかは確定しているものではないですけども、これまでのアンケートでいうと、なかなか、若年層、20代とか現役世代というのは低い傾向にあるというのはよく出てきています。それを一部解消するための方法として、若年層でいうと、中学校であるとか高等学校であるとかに出向いてそれを出してもらうことによって、若年層の意見はそれができるわけですから、そういう方法をとるという形もできると。だから、若年層はこういう考えを持っていますよ、という1つのアンケート結果は出ますので、それが全体的に不平等になるとかではないと思います。市内の高校生はこういう考えをお持ちですよという分析はできることになる。これまでのいろいろなアンケートはそこを選んで行っている部分があるというのは、これは情報提供です。だから、それをしるかそういう話ではなくて、多分そういう状況であると。

○政野太委員長 実際、数を1,400からふやすことは可能ですか。予算的なことも関係してくると思うのですが。係長。

○横山和昭議会事務局議事調査係長 即答は控えさせていただきます。

○政野太委員長 高校生にとる、中学生にとるという議論は、また別の議論だと思っています。若年層と言われるところが一体何歳なのか、ということも今まだ確実に決まっていないところもあります。それから、今回のアンケートの内容。定数と報酬を考えるアンケートです。例えば、市議会に関するアンケートの場合でしたら、そういった中学生、高校生というのも効果的ではないかとは思いますが、今回は定数と報酬という限られたアンケート内容ですので、その辺も考えてもらいながら、また御意見をください。年齢層について、どのような配分でするかということも考えていきたいと思いますが、今ここで数字を確定することはできませんが、お考えをお聞かせください。いかがでしょうか。純粋に人口比でいけばいいのであれば、庄原市の人口比率、年齢比率ですね。高齢化率が高い。そういったアンケートになるものと思われまます。そこについて、ある程度少し配分を変えて、これから先を見据えたものにしていくべきではないかという意見もあってもいいのではないかとありますが、いかがでしょうか。横路副議長。

○横路政之副議長 報酬に関しては、高校生はほとんどぴんとこないのではないかと思います。定数もそれにリンクしているので、この年代層はどうかなという思いがしています。

○政野太委員長 國利委員。

○國利知史議員 私もこのアンケートを見てそれは思って、例えば、高校生にこのアンケートを書いて

くれと渡しても、わからないことがすごく多いのではないかなと思うのです。なので、もし行うのなら、今言われるように高校生が答えやすいようにする。だから、高校生と一般の人とアンケートを一緒にしていると、わからない部分の意見というのが多くなってくるのではないかなとは感じました。統計上どうかという問題もあると思うのですけれども、高校生に行うのであったら少し内容も変えたほうがいいのかとは感じました。

○政野太委員長　　今、2つの意見が出ました。提案をさせてもらっているアンケートについて実施する場合、高校生には不向きではないかという意見が両方から出まして、さらに、國利委員からはアンケートを2通りに分けてはいかがか、高校生向けのアンケートも実施してはどうかという意見がありました。これについて皆さんいかがでしょうか。一番考えていかなければいけないのは、この委員会として、その定数と報酬を検討するために市民の方の意見をもらうことが大原則ですので、高校生に政治を知ってもらうという内容ではないと私は理解していますがいかがでしょうか。1つずつ出た意見を整理していかないとまとめきれないので、まず、2つにアンケートを分けるという点については、近藤議長、いかがでしょうか。

○近藤久子議長　　アンケートというのは、もちろん数字のひとり歩きというのは困るのですけれども、一番大事なのはその数字の信憑性だと思います。先ほど係長が言われたように、どの地域においても高齢者の回答率が高くて、若年層というのが、30代も入るでしょうね。そういう方たちの回答が低いというのはもう最初からわかったことだと思うのですが、現段階ではそういうアンケートのとり方でしか実施できないのではないかと思います。先ほどから出ている高校生。政治がわからない。だから、今度、コロナが終息したときには、市民と語る会の中で、高校生に対してきっちりと市議会の活動なりを伝えていく活動をこの市議会はしていく必要があるのかなと、そう思っています。信憑性とかを考えると、高齢者の回答率が高いのは、それほど関心を持ってくださっているのだな、と理解もできると思うのです。

○花田譲二議会事務局長　　委員長が議論されているのは、基本的に高齢化率が高い状態。回答率が高いということであると、ここの部分の配分をどう考えるかというのを議論してもらえればいい。その中で、先ほど出た高校生であるとか、そういう部分のところも必要であれば、その部分をどうするかという議論になっていくのではないかな。今、議長が言われたように、もちろん高齢化率で言うと40何%というのが出ているわけですから、それだけ人口比重が高いのだと回答も当然高いと。現役世代と呼ばれている20代、30代、40代ぐらいまで現役世代というのですかね。そこらの部分のところ幅を持たせようと思ったら、何割を少しふやそうとか、そういう形のを議論されるべきかと委員長が言われておられますので、そこをまず押さえられていくべきかと思えます。だから、どういう形のを回答として求めていくべきか、という議論の中でお話をしてもらえればいいのかと思えます。

○政野太委員長　　藤木委員。

○藤木百合子議員　　若い人の回答が少ないことは現実なので、比率でいくしかないのではないかなと。回答率が悪いという現実も受けなければいけない。それと、この報酬のアンケートの中には額は出されていないですね。現在の報酬が高いか安いとかかというのではなく。額が出てないのでわかりにくいのかなという感じはしました。

○政野太委員長　　近藤議長。

- 近藤久子議長 無作為に抽出するのだけれども、例えば20代が2割、30代が何割、その比率を考えたかどうかということですね。
- 政野太委員長 それが基本だったのですけれども、アンケートを2つに分けたほうがどうかとかいろいろ出てきたから、そのあたりをもう1回整理してから次に行かないといけないと思ったのです。
- 政野太委員長 堀井委員。
- 堀井秀昭議員 入院している人はどうするのかとか、施設にいる人はどうするのかということを議論していたらきりが無い。アンケートを実施する1つのパターンに忠実に。先ほども言いましたけれども、年代、性別、できたら地域。ここらをおある程度算定の基礎にして抽出をしてもらって、行ってみるのが一番いいのではないかと思います。高校だけとかなんとかだけというのを別扱いにすることをやる必要は今の段階ではない。
- 政野太委員長 年齢構成についてはどうですか。
- 堀井秀昭委員 年齢構成もそれは1つの抽出する要件に加えてもいいけれども、特定の年齢をふやすとかふやさないとかいう議論を今の段階ではしなくていいのでは。一般的に興味のある人が返してくださるのだから。どういう方法をしたとしても興味がない人は返してくださらない。興味がある人が返してくれた調査結果を、この特別委員会としては、ある程度参考意見として考えながら結論を出していくことにすればいいのではないですか。
- 政野太委員長 福山委員。
- 福山権二議員 さっきからずっと考えているのだけれども、いろいろな角度から出るからまとめようがない感じがする。本来アンケートを取るという動機は、もともとこの委員会が、今の定数でいいのか、今の報酬でいいのか、どう考えられているかという資料にしようとする。そうすると、例えば、20でいいですか、ふやすべきか減らすべきかということ、減らすべきだとまとまると、それにこの委員会が規制される。民意がこうではないかと。そのあたりを考えないといけないので、このアンケートを見ても、そこをぼかした形になっていますよね。もともとアンケートがそこをぼかして行っているから、一般的な意見を出してくれとなるので、実施したとしても、今のようならばばらばらな意見が出る。だから、そういう意味では、そこをはっきり書いたら。アトランダムにわたしてから結果を出せばいいのだけれども、このアンケートにこの委員会が正確に答えようという意思がなかったら、アンケートをとる意味がないような気がしたりするわけです。だから、20でいいのか、今の報酬でいいのかを取ろうと。それも参考にしてもらいますよという言い方をしたほうがいいのかと。議論が始まる前に、そこをぼやかしていいのかどうか議論しようかと思った。ぼやかしたのには意図があるのだろうけれども、それだけに、アンケートをとる。これをどう扱うのかが、こちらの腹構えがないとどうしても意見はばらけますよね。何のためにとるのかというのがあるので。一般的に、議会に対して皆さんどう思っていますかというのではなく、そういうアンケートならそれでもいい。委員会は、定数をどうするか、報酬をどうするかという大きなポイントがあるので、それに活用できるようなものをしようと思ったら、誰からとるかはアトランダムにしたらそれでいいと思うけれども、問う側の中身が不明確ならよくないのではないかと。
- 政野太委員長 少し話がずれるので整理していきたいと思います。中身についてももちろんまた議論していかなければいけないのですが、今、皆さんの意見を聞いてみると、特に年代で配分を変えろという意見はなかったと思いますので、もしあれば、今、言ってもらえればと思うのです。松本委員。

○松本みのり委員 年代に対して無作為でアンケートを送ってしまうと、どうしてもアンケートが届く数は60代、70代以上の方が多くなってしまふところがあると思うので、20代の方はこんなですよとある程度数がとれるように20代に何通、30代に何通という形はあってもいいのかなと思っています。

○政野太委員長 事務局長。

○花田譲二議会事務局長 各年代の人口に対して3割の部分のところを送ろうとか4割ですから、母数が違うだけで、比率は一緒で送る形になりますので、返ってくる回答というのは、先ほど堀井委員さんが言われた結果の話ですから、そこをコントロールはできない。だから、例えば、20代が100通だったものを、回答数をふやしたいから20代は200通にしよう。その代わり全体のキャパシティが決まっているから、60代は300通だったものを250通にしようという形の細工をすることは可能。そういうアンケートもあるという話。今、御議論をしてもらっているのは、そういった年齢層の数に応じた形の比率で行っているのではないかと御議論でしたので、基本的に年代によって若干その回答数が違うというのは、これはいたしかたないのではないかと御議論をもらっているのです。決して、そこだけ抜けることは絶対ないです。比率で全部、それこそ無作為でこの年代は何通という形の数になってまいりますので、そこは問題ないと思われまふ。

○政野太委員長 いかがでしょう。今、局長からも説明があったように、回答についての差異は出ないものだと思っています。ただ、配布数は、人口比率でいくとどうしても先ほど言った60代70代がふえるとは思いますが、その中のその年代での考え方というのはちゃんと整理できるかと思ひますので、特にその制限はつけないことで皆さんよろしいでしょうか。まず1点。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○政野太委員長 それでは議員アンケートの配布の抽出については、人口比率で配分をすることによろしいでしょうか。係長。

○横山和昭議会事務局議事調査係長 問1に7区分、年齢区分を仮で設けていますけれども、例えばこの中で、200名ずつで1,400通という思いで事務局の案として持っていましたので、例えばこれを、1,600名にして20代をもう100通ふやそうとか、30代も100通ふやして全部で1,600通にしようとか、そういった形の御議論であれば今この場でお伺いをして、予算の範囲内で実施数の増減はできようかと思ひますので、その点確定をしてもらえればと思ひます。

○政野太委員長 福山委員。

○福山権二委員 同じような数でいいと思ひます。議会として、どこだけを抽出してその意見、ではなく、高齢者が多いのに高齢者が少ないことにはならないから、それは満遍的に行う。

○政野太委員長 事務局長。

○花田譲二議会事務局長 母数としては、先ほど係長が言ったものが大体多いです。ただし、もっと回答数者数をふやしたいという意図的なものがある場合は、3,000通とか分母を大きくするというのはアンケートのものによってはあります。今回については、先ほど言いました、年代別に200名ぐらいで行っていくということで1,600通。予算的なものもありますので、そういう形にしているというものです。

○政野太委員長 堀井委員。

○堀井秀昭議員 委員長が先ほどまとめたものでいいと思ひし、ふやすことはどうかという予算措置の

問題が起きたときに、係長が今は答えられないと言ったのだから、ここでのまとめとしては、予算措置ができる限りアンケートを出す人数をふやしていこうという結論でいいのではないかと。

○政野太委員長　それでは、年代層についてはもうこの配分でいくと。それから、地域割りをつける、地域と合わせたものをする。あと男女。こういった3点について、整理をしてもらって配布する。数については予算の限りがありますが、できるだけ多く発送することで皆さんよろしいでしょうか。それでは、中身については先ほど福山委員のほうから少し御意見をもらいましたが、事務局長。

○花田譲二議会事務局長　中身の部分についての議論をする中で、直接的なものをしてしまうと、先ほど係長が説明しましたとおり、多い少ないという議論だけが先行する。これは他市町の市議会のアンケートの事例でも出ているもので、直近で、私も勉強させてもらった廿日市の市議会などは、そういうのもあるので、議会にどう携わってどう理解してもらえるのかを知ることによって、その必要性であったり、そういったものを分析していこうというも行われている。そのほかにもいろいろ前例を調べさせてもらおうと、そういう形のもで行っているという議論をこれまでしてもらっているという上に乗ってこれをつくっている、という御理解をしてもらえればと思います。

○政野太委員長　今、局長から説明をもらいましたが、これについて何かありますでしょうか。

○政野太委員長　藤木委員。

○藤木百合子議員　定数が12から14とか、そういう数もよそは出されていないのですかね。1が何人、2が何人というので丸をつけてください。自分が思う人数はどこですかという感じで、数を出しているのか。報酬に関しても、20万から25万とか、25万から30万、35万から40万というので選んでくださいみたいな数も廿日市でも出されていないのですか。

○政野太委員長　局長。

○花田譲二議会事務局長　基本的に、それを行うと、それが民意であるので、それに引っ張られることが出てまいります。例えば、うちが20だったのが、15がいいとなると、民意は15なので15にしないといけないという議論に直接なっていく可能性がある。これは、過去のいろいろなところの中で聞いています。どれがいいですかというのは、それに対する根拠が要りますから。その根拠をこちらが示さないで、幾つがいいですかというのを聞くのは非常に乱暴である。金額も、例えば、それをするのであれば、どこが幾らであります、全体の所得平均がこれだけですよという説明をした上で、高いですか安いですか、幾らが適当ですかというのはいいですけども、そうではなくて幾らがいいですかと言ったら、御自分の生活とかそういうのも踏まえらるので、それが基準になってしまう。先ほどそれは福山議員も少し言われたと思うのですが、そういう状態なので、基本的にどれがいいですかという数字の選択をするというアンケートは、あるかないかと言われると、全くありませんとは答えられませんが、私どもが調べている部分の中では、その金額を求めるものはありません。

○政野太委員長　堀井委員。

○堀井秀昭委員　この、問10、11。私はいいと思う。一番最初の会議でも言ったけれども、正解のある結論を出そうと求めているのではないので、20を基本にして、多いと思いますか少ないと思いますかというアンケートはまずい。むしろ、人口規模、その他の規模、どういった規模で議員定数を定めるべきだと考えておられますか、ということを知ることが重要だと考えますから、それをもとにこの特別委員会を、一定の結論を出していかないといけない。多いと言われたから多過ぎるらしいとか、少ないと言われたから少ないのではないだろうかという結論の出し方は、あまり求めないほうがいいの

ではないかと思う。アンケートのこの項目は、よく考えたなと感心している。

○政野太委員長 横路副議長。

○横路政之副議長 私も、よく書かれているなと思う。こういうことを聞いてみたいなという思いのアンケート内容になっている。

○政野太委員長 市民アンケートをとることを最初の会議のときに決めさせてもらう中で、係長とも話をする中で、最終的に私たちが議論をする参考資料にさせてもらおうという思いからのアンケートになっていますので、私もこの内容でいいと思うのですが、よろしいでしょうか。國利委員。

○國利知史委員 複数回答可と書いてあるところは複数でいいと思うのですが、例えば問 10 とかは、何を基準に決めるべきだと思いますか、というところとかも複数回答でもいいと思うのです。問 5 とかも、例えば、議場や委員会室で傍聴したことがあるし、ユーチューブで見たこともあると思うので、1つではないのかなという質問が何個かあったと思います。問 11 もそうかなとは思いました。

○政野太委員長 問 5 は確かに言われるとおりではないかなとは思いますが、このアンケートの問 10、11 については、例えば、全部に丸をされると優先順位がつかない。アンケートで答えを集計していくためには、何を優先すべきかを求めているのがこのアンケートだと思っているのですが、いかがでしょう。例えば、複数が 2 個までとか、複数何個かとかも可とする。全て複数回答可にしますか。全部に丸をオーケーにしますか。例えば、複数回答に 2 個までとかいろいろ設定できると思うのですが。局長。

○花田譲二議会事務局長 確かに、問 5 は何をされたかという選択なので、複数、全部に丸をされる方もおられる可能性はありますが、それは複数回答という形で制限するべきではないと思いますし、問 10 などにおいては、全部に丸をされるというところになると、優先的なものを探りたいというのは少しあるのですが、どうかなというところがあります。もちろん複数回答にして、多いところから選択するのはできます。問 11 も優先順位を少し見たいなというところがありますので、1 個にしておけばそれだけ数は限られるという考え方もあります。もちろん、國利委員のお考えでも、それは数がふえるだけですから、どちらも分析では大きな差は出ないとは思いますが、問 5 は間違いなく複数回答です。

○政野太委員長 御意見はありませんでしょうか。横路副議長。

○横路政之副議長 最後に、特に思う項目を、とつけておけばいいのではないかな。それが全部になる人もいるかもしれないですが。

○政野太委員長 福山委員。

○福山権二委員 このままでいいと思います。特に思うとか思わないとかではなく、選ぶときにどれがいちばんいいかと選ぶわけだから、特に思うものを書くわけで、そこまで親切に言わなくても、それでいいと思います。

○政野太委員長 近藤議長。

○近藤久子議長 いろいろなアンケートを見てみますと、2 つまでとかと書いてあるアンケートもあるのです。ということは、アンケートに答える人が答えやすいような書き方にされたらいいと思う。ぱっと見たら、全部丸だと言う人がおられるかもしれないですが。

○政野太委員長 福山委員。

- 福山権二委員 アンケートの意図もあるので、このままでいいと思います。2つ3つと言わずにこのままでいくのです。もともとの定数については、堀井委員が言ったように、全体の議論はここであるのだから、この結果に最大限左右されないように、客観的事実として集約することだから、そのように行きましょう。
- 政野太委員長 局長。
- 花田譲二議会事務局長 問5だけは変えさせてください。いろいろな形があるだろうというこれは、間違いなく複数回答してもらう必要があるかと思いますので。
- 政野太委員長 問10、11について、今いろいろ御意見をもらっています。松本委員いかがでしょうか。
- 松本みのり委員 そのままでよろしいかと思います。ただ、問10についても、もしかしたら新しい考えをお持ちの方もおられるかもしれないので、その他をつけ加えてもよいのかなと思います。
- 政野太委員長 そこは問12でいけるのではないかと。藤木委員はいかがでしょうか。よろしいですか。横路副議長。國利委員、そういう結果になりましたがよろしいでしょうか。桂藤委員。では、問5については、局長からありましたように複数回答に変えさせてもらって、問10、11についてはこのままでいかせてください。よろしいでしょうか。國利委員。
- 國利知史委員 考え過ぎなのかもしれないですが、問7なのですけれども、あなたの意見や市民の声は市議会に反映されていると思いますか、というところで、市民の人は市議会に対して声を出しているわけではないのかなと思って。市民の方は、多分、市政に対して声を出しているのであって、市議会に反映されるために声を出しているのではないのかなと。このニュアンスをどうするのかというのが少し気になったところです。
- 政野太委員長 今、國利委員から問7について御意見をもらいましたが、横路副議長。
- 横路政之副議長 これでいいのではないかと。私は、この文面どおりに受け入れられる。
- 政野太委員長 初めに、というところにアンケート目的がしっかり書いてありますので、それにつながる質問だと理解してもらえればとは思いますが、そのほか何かお気になられるところはありませんでしょうか。
- 近藤久子議長 このアンケートを見ていると、報酬は減らせ、議員数も減らせという結果が出るようなアンケートが多い中で、本当によく考えられている内容だと思いました。
- 政野太委員長 それでは、大方意見が出たと思いますので、この案件について修正すべき点について修正をして、もうこのまま実施に向かいたいと思います。それについては、3月中には発送するというので、この市民アンケートについての協議は終わりたいと思いますが、よろしいですか。

---

## 2 今後の審査について

- 政野太委員長 それでは、2番の今後の審査についてという点ですが、本格的にはこの市民アンケートが回収されてからになると思います。これまでは、ある程度、ほかの委員会がある日に、皆様方にあまり負担をかけないように会議日程等も決めていました。今後、4月以降につきましては少しピッチを上げていかなければいけないこともありますので、アンケートの集計結果が出るタイミングにもよりますが、頻繁にお集まりをしてもらうこともあるかと思いますが、その点御了承ください。

今後の審査予定については、先日本配りした日程で確認しもらえればと思います。松本委員。

○松本みのり委員　　ピッチを上げて回数がふえてくるに当たって、突然この日に委員会となると困るので、ある程度、第何何曜日とかそういった形で定例にしてもらえれば予定が立てやすく助かります。

○政野太委員長　　事務局長。

○花田譲二議会議務局長　　定例にできればいいのですが、それはなかなか難しいと思いますので、一応、委員の皆様のお都合を聞きながら行うことにさせていただきます。閉会中になりますので、開会中であれば完全にそれが優先になりはしますが、その辺のところは申し訳ありません。できるだけ早くに日程調整をするように努力をします。松本委員が言われることは当然だと思いますので、できるだけ皆さんの御都合がいいときにあわせるように事務局として調整はさせていただきます。ただ、委員長が言われるように、やはりある程度もう期限が決められているものですので、根を詰めて議論しなければならなくなっていく場面もあります。その辺はお含みおきください。

○政野太委員長　　堀井委員。

○堀井秀昭委員　　庄原市議会は、常任委員会は2年単位で切り替えるようにしていますね。特別委員会はどうしてきたのか。

○政野太委員長　　局長。

○花田譲二議会議務局長　　同じですが、そのまま継続も可能です。

○堀井秀昭委員　　継続は可能ということは、基本的には切り替えるべきと考えたらよいか。

○花田譲二議会議務局長　　そうです。ただし、これは皆さん統一で決められていることと、この委員については会派代表者会議を含めての議論をさせてもらっているというのがありますので、何もせず継続することは原則的にはできない。

○政野太委員長　　要するに、何らかの会派代表者会議なり、そういったところで、この会議をどう継続していくかを決めないといけないということでしょうか。

○花田譲二議会議務局長　　決めるといえるか、確認をしてもらおう。これを、このままこの委員で継続するかどうかを一旦、2年ごとに行っている申し合わせですので、その確認という作業だと思います。一旦解散しろとかそういうわけではありません。

○政野太委員長　　それは、今の体制で決めてもよろしいですか。委員は多分もう委員なのですけれども、オブザーバーとして入っておられる方ということも含めてですよね。

○花田譲二議会議務局長　　そうです。ですから、当然議長が変わればこの議長席の方は変わります。議長、副議長という形でおられる部分については人が変わりますので、完全にこのままをシフトすることにはならないのは事実です。

○政野太委員長　　堀井委員。

○堀井秀昭委員　　特別委員会の継続というのは、結論が出るまでは継続するのだから、中の委員がどうするのかということになるので、今の、議長、副議長の件については事務局長が言ったとおり。あとの委員の皆さんは、各会派で変わられるのなら変わられるという報告を求めて、変わられないのなら変わられない。新たに新年度からは、特別委員会のメンバーを確定していく。そういう作業を1回やらないといけないと局長が言っているから、それはやらないといけない。

○政野太委員長　　今、堀井委員からありました件については、議長にお願いをしたいと思います。会派代表者会議を招集してもらって。

- 堀井秀昭委員 代表者会議ではない。会派で決めて抽出すればいい。
- 花田譲二議会事務局長 再度整理をしてお伝えするようにいたします。どちらにしても4月にはそれぞれ委員会の変更、また役職の変更等がありますので、そちらにしたがって、どういう形で進めるかというのは事務局で再度整理してお伝えする形にします。
- 政野太委員長 その件については一旦整理をしてもらいますようお願いいたします。

---

### 3 その他

- 政野太委員長 その他について何かありませんでしょうか。近藤議長。
- 近藤久子議長 実は、年度が変わるのですけれども、これを進めるに当たって、講師を招聘して、みんなで議員の定数とか報酬について考える場面があったほうがいいのではないかと思います。年度替わりで人気の高い講師はもうスケジュールが決まると思うのですけれども、ある程度、とにかく講師に来てもらうという方針を、御確認をしてもらえれば事務局も動きやすいかなと思うのですがいかがでしょうか。
- 政野太委員長 局長。
- 花田譲二議会事務局長 今、議長が言われていますのは、新年度予算にかかってくるものですから、今の段階で契約をしたりすることはできませんので、あくまでも新年度の中での議員研修会の1つであるとか、そういう部分についてという形の企画になろうかと思えます。もしそこを進めるのであれば、新年度早々そういう内容をしっかり吟味しながら、講師であるとかそういう日程とかを押さえる必要がある。最初に年度内にそれを押さえておくことができないという状況がありましたので、それは新年度で再度御検討をしてもらえればと思います。
- 政野太委員長 堀井委員。
- 堀井秀昭委員 議長が言われたように、有識者の意見も、来てもらって1回勉強しようではないですか。その取り組みを決定しておいて、新年度において予算の獲得と決定事項としていくということ。
- 政野太委員長 議長、堀井委員からもありましたように、次年度のことになりますので、このメンバーかどうかは定かではありませんが、この時点で、来年度に向けて有識者の先生を招聘して、来てもらって講演を聞かせてもらうことも参考にするのでよろしいでしょうか。
- 〔「はい」と呼ぶ者あり〕
- 政野太委員長 そのほかにはありませんね。次回予定ですが、先ほどもありましたように、この時点ではまだ予定が決められません。今年度はもう予定はないですね。ですから、新年度からになると思いますが、また改めて予定を案内しますのでよろしく申し上げます。それでは、以上で定数及び議員報酬調査特別委員会を閉会いたします。

午前11時59分 散 会

---

庄原市議会委員会条例第 30 条の規定により、ここに署名する。

議員定数及び議員報酬調査特別委員会

委員長